

食品安全情報（微生物） No.4 / 2024（2024.02.21）

国立医薬品食品衛生研究所 安全情報部

(<https://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/index.html>)

目次

【[米国疾病予防管理センター（US CDC）](#)】

1. 米国疾病予防管理センター（US CDC）が新たな東アジア・太平洋（EAP）地域事務所を日本に開設
2. チーズ（queso fresco および cotija）に関連して複数州にわたり発生しているリステリア（*Listeria monocytogenes*）感染アウトブレイク（2024年2月6日付初発情報）
3. 生乳チーズに関連して複数州にわたり発生している大腸菌 O157:H7 感染アウトブレイク（2024年2月16日付初発情報）
4. シャルキュトリ（食肉加工品）に関連して複数州にわたり発生しているサルモネラ（*Salmonella* I 4:I:-）感染アウトブレイク（2024年2月15日付更新情報）

【[欧州疾病予防管理センター（ECDC）](#)】

1. 欧州における抗菌剤耐性サーベイランスの2023年次報告書（2021年データの報告）

【[欧州委員会健康・食品安全総局（EC DG-SANTE）](#)】

1. 食品および飼料に関する早期警告システム（RASFF : Rapid Alert System for Food and Feed）

【[アイルランド食品安全局（FSAI）](#)】

1. 英国が2024年1月31日付で輸入管理制度を変更

【[ProMED-mail](#)】

1. コレラ、下痢、赤痢最新情報（08）（07）（06）（05）

【各国政府機関】

- 米国疾病予防管理センター (US CDC: Centers for Disease Control and Prevention)
<https://www.cdc.gov/>

1. 米国疾病予防管理センター (US CDC) が新たな東アジア・太平洋 (EAP) 地域事務所を日本に開設

CDC Opens New East Asia and Pacific Regional Office in Japan

February 5, 2024

<https://www.cdc.gov/media/releases/2024/p0202-cdc-japan-office.html>

米国疾病予防管理センター (US CDC) の新たな東アジア・太平洋 (EAP) 地域事務所が日本の東京に開設されることを記念し、CDC のコーエン所長は、エマニュエル駐日米国大使、日本の武見厚生労働大臣、EAP 地域各国・国際機関・学術機関の外交分野および衛生分野の代表者らとともに祝賀式典に出席した。CDC の EAP 地域事務所は、日本・その他の提携各国・地域機関と協力して公衆衛生上の脅威を予防・検出しこれに対処することで、国際的な公衆衛生への米国政府の影響強化を促す。

新事務所の優先事項は以下の通りである。

- ・ EAP 地域における協力・連携のさらなる強化による、CDC の中核的な世界健康安全保障能力の向上
- ・ 公衆衛生上の脅威を早期に検出し、これに迅速に対応する能力の向上
- ・ CDC と EAP 地域との間の知見・情報の共有

今回の新事務所の開設により、CDC は、アウトブレイクの発生源で迅速に対応し米国への拡散や米国内での拡大を防ぐため、国際レベルでの健康危害の特定および対応・低減策の実施に重点的に取り組む予定である。政府・非政府機関の連携強化は、CDC がデータの迅速な共有に必要な信頼関係と透明性を確立するために役立ち、これにより、中核的な世界健康安全保障能力も強化される。また、脅威の予防・検出・対応を行う国際的人材の育成における協力、および科学的専門知識の共有は、新興の脅威を未然に防ぐためのプログラムや人材の強化につながる。

2. チーズ (queso fresco および cotija) に関連して複数州にわたり発生しているリステリア (*Listeria monocytogenes*) 感染アウトブレイク (2024 年 2 月 6 日付初発情報)

Listeria Outbreak Linked to Queso Fresco and Cotija Cheese

Posted February 6, 2024

<https://www.cdc.gov/listeria/outbreaks/cheese-02-24/index.html>

<https://www.cdc.gov/listeria/outbreaks/cheese-02-24/details.html> (Investigation Details)

<https://www.cdc.gov/listeria/outbreaks/cheese-02-24/map.html> (Map)

米国疾病予防管理センター (US CDC)、複数州の公衆衛生・食品規制当局および米国食品医薬品局 (US FDA) は、複数州にわたり発生しているリステリア (*Listeria monocytogenes*) 感染アウトブレイクを調査するため様々なデータを収集している。

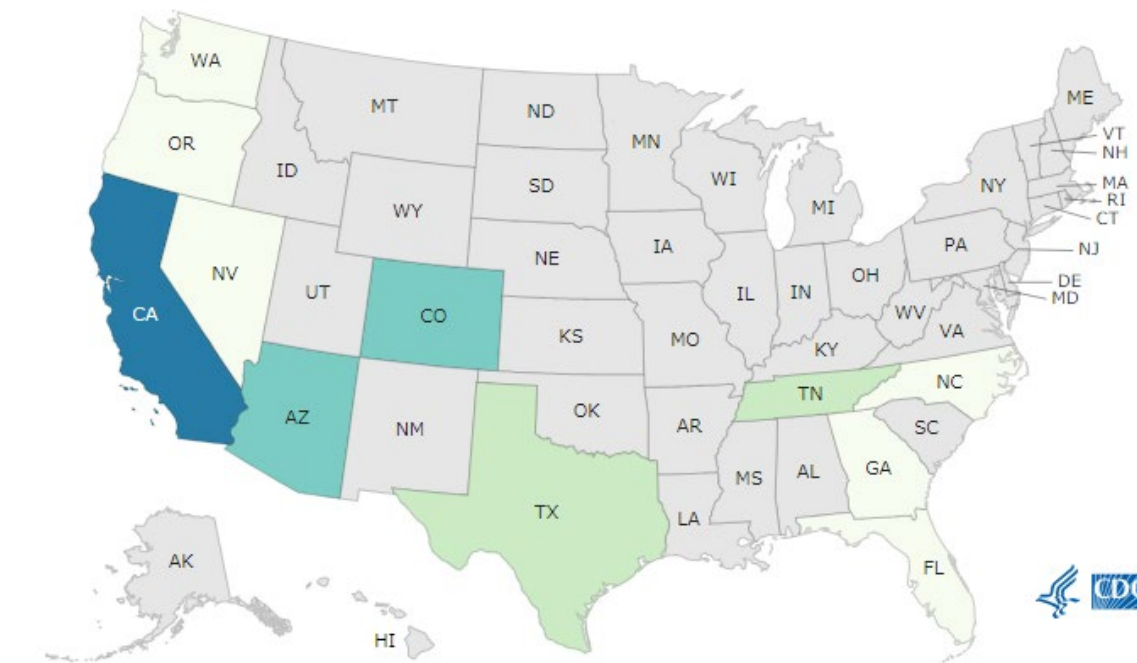
CDC は、2017 年および 2021 年にも本アウトブレイクの調査を行った。過去の調査で得られた疫学的エビデンスにより、可能性のある感染源として queso fresco (チーズ) およびこれに類似したその他のチーズが特定されていたが、これらのチーズの具体的なブランド名を特定するための十分な情報は得られていなかった。新たな患者が 2023 年 12 月に報告されたことから CDC は調査を開始し、Rizo-López Foods 社製のチーズ 1 検体から以前の株と近縁なアウトブレイク株が検出された。

疫学データおよび検査機関での最近の検査データは、Rizo-López Foods 社製の queso fresco および cotija (チーズ) が本アウトブレイクの感染源となっていることを示している。

○ 疫学データ

2024 年 2 月 6 日時点で、*L. monocytogenes* アウトブレイク株に感染した患者計 26 人が 11 州から報告されている (図)。患者の発症日は 2014 年 6 月 15 日～2023 年 12 月 10 日である。情報が得られた患者 26 人全員のうち 23 人が入院した。死亡者はカリフォルニア州およびテキサス州から 1 人ずつ計 2 人が報告されている。

図：リステリア (*Listeria monocytogenes*) 感染アウトブレイクの居住州別患者数 (2024 年 2 月 6 日時点の計 26 人)



リステリア症は、妊娠関連の患者では流産・早産・新生児での致死的な感染の原因となり得る。本アウトブレイクでは 2 人が妊娠中に感染し、このうち 1 人が流産した。リステリアは妊娠中に新生児に感染する可能性があるため、本アウトブレイクの患者数に新生児 2 人も含まれている。

公衆衛生当局は、患者の年齢・人種・民族・その他の人口統計学的特徴、および患者が発症前 1 カ月間に喫食した食品など、患者に関する様々な情報を多数収集している。これらの情報は、アウトブレイク調査で感染源を特定するための手掛かりとなる。

本アウトブレイクの患者について現時点で得られている人口統計学的情報は以下の通りである (n は当該情報が得られた患者の数)。

年齢 (n=26)	年齢範囲：1 歳未満～88 歳 年齢中央値：52 歳
性別 (n=26)	58%：女性 42%：男性

人種 (n=21)	71% : 白人 5% : アメリカ先住民またはアラスカ先住民 24% : その他の人種
民族 (n=26)	85% : ヒスパニック系 15% : 非ヒスパニック系

各州・地域の公衆衛生当局は、患者が発症前 1 カ月間に喫食した食品に関する聞き取り調査を行っている。聞き取りが実施された患者 22 人のうち 16 人(73%)が、queso fresco、cotija、およびこれらに類似したその他のチーズの喫食を報告した。喫食したチーズの具体的なブランド名を記憶していた患者のうち、2014～2022 年に発症した 3 人が Don Francisco ブランドの queso fresco または cotija を報告した。Don Francisco は回収対象チーズのブランドの 1 つである。

○ 検査機関での検査データ

本アウトブレイクの公衆衛生調査では、アウトブレイク患者を特定するために PulseNet (食品由来疾患サーベイランスのための分子生物学的サブタイピングネットワーク) のシステムを利用している。CDC の PulseNet 部門は、食品由来疾患の原因菌の DNA フィンガープリントの国内データベースを管理している。原因菌の分離株には WGS (全ゲノムシーケンシング) 法により DNA フィンガープリンティングが行われる。

WGS 解析により、2014 年から直近までの患者由来検体から分離されたリステリア株が遺伝学的に相互に近縁であることが示された。この結果は、本アウトブレイクの患者が同じ食品により感染したことを示唆している。

2024 年 1 月に、ハワイ州保健局食品医薬品部門 (DOH FDB) は、通常のサンプリングにおいて Rizo-López Foods 社製の熟成 cotija チーズ製品 1 検体を採取した。検査の結果、当該検体から *L. monocytogenes* アウトブレイク株が検出された。

FDA は、Rizo-López Foods 社の施設の立ち入り検査を実施し、食品・環境検体を採取した。これらの検体を検査した結果、包装前のチーズの保存容器の表面から *L. monocytogenes* アウトブレイク株が検出された。

○ 公衆衛生上の措置

ハワイ州当局が Rizo-López Foods 社製の熟成 cotija チーズ製品から *L. monocytogenes* アウトブレイク株を検出したことを受け、2024 年 1 月 11 日に同社は当該製品の回収を開始した (以下 Web ページ参照)。

<https://www.fda.gov/safety/recalls-market-withdrawals-safety-alerts/rizo-lopez-foods-inc-recalls-aged-cotija-mexican-grating-cheese-8oz-because-possible-health-risk>

同社は 2 月 6 日に回収対象を拡大し、同社施設で製造された全てのチーズおよびその他の乳製品の回収を開始した（以下 Web ページ参照）。調査が継続中であることから、同社はこれらの製品の製造・出荷も一時的に停止している。

<https://www.prnewswire.com/news-releases/rizo-lopez-foods-inc-voluntarily-recalls-dairy-products-because-of-possible-health-risk-302053958.html>

CDC は、すべての回収対象製品を喫食・販売・提供しないよう注意喚起している。

3. 生乳チーズに関連して複数州にわたり発生している大腸菌 O157:H7 感染アウトブレイク（2024 年 2 月 16 日付初発情報）

E. coli Outbreak Linked to Raw Milk Cheese

Posted February 16, 2024

<https://www.cdc.gov/ecoli/raw-milk-cheese-2-24/index.html>

<https://www.cdc.gov/ecoli/raw-milk-cheese-2-24/details.html> (Investigation Details)

<https://www.cdc.gov/ecoli/raw-milk-cheese-2-24/map.html> (Map)

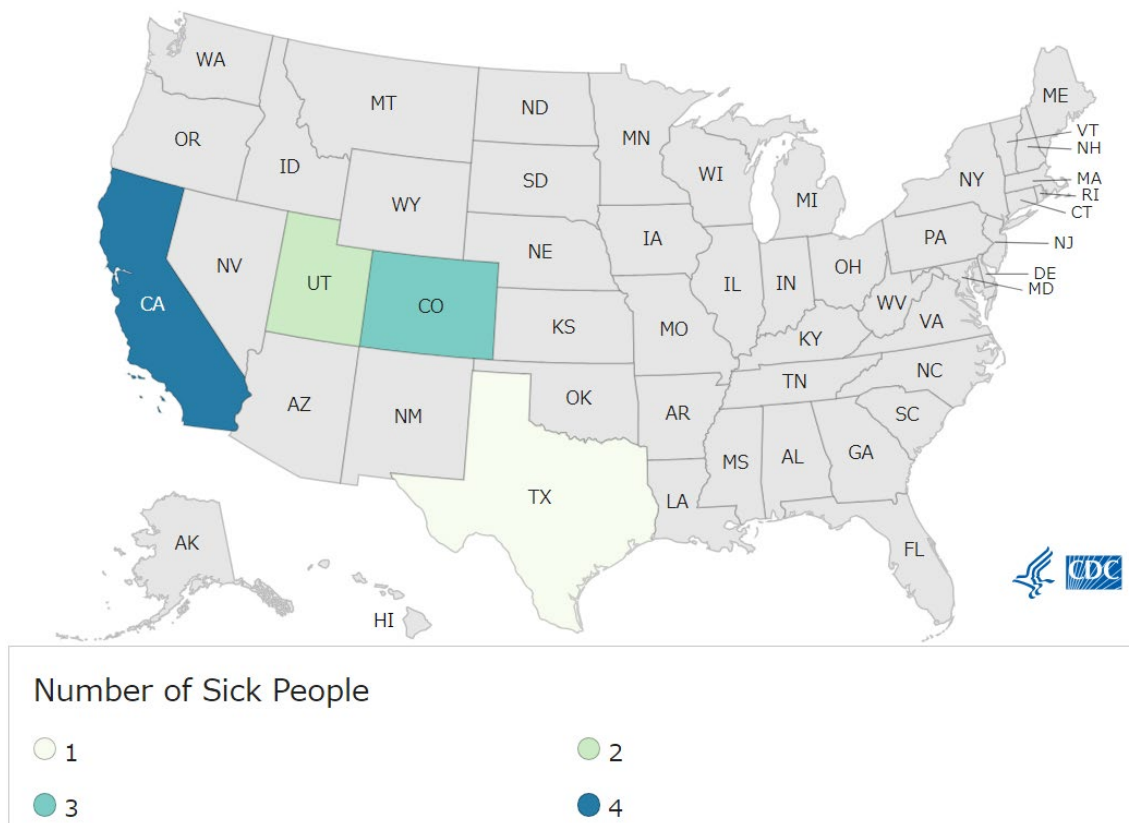
米国疾病予防管理センター（US CDC）、複数州の公衆衛生・食品規制当局および米国食品医薬品局（US FDA）は、複数州にわたり発生している大腸菌 O157:H7 感染アウトブレイクを調査するため様々なデータを収集している。

疫学データは、RAW FARM ブランドの生乳チーズが本アウトブレイクの感染源となっていることを示している。

○ 疫学データ

2024 年 2 月 16 日時点で、大腸菌 O157:H7 アウトブレイク株感染患者が 4 州から計 10 人報告されている（図）。患者の発症日は 2023 年 10 月 18 日～2024 年 1 月 29 日である。情報が得られた患者 9 人のうち 4 人が入院し、1 人が溶血性尿毒症症候群（HUS）を発症した。死亡者は報告されていない。

図：大腸菌 O157:H7 感染アウトブレイクの居住州別患者数（2024 年 2 月 16 日時点の計 10 人）



公衆衛生当局は、患者の年齢・人種・民族・その他の人口統計学的特徴、および患者が発症前 1 週間に喫食した食品など、患者に関する様々な情報を多数収集している。これらの情報は、アウトブレイク調査で感染源を特定するための手掛かりとなる。

本アウトブレイクの患者について現時点で得られている人口統計学的情報は以下の通りである（n は当該情報が得られた患者の数）。

年齢 (n=10)	年齢範囲：2～58 歳 年齢中央値：24 歳
性別 (n=10)	30%：女性 70%：男性
人種 (n=7)	86%：白人 14%：アジア系
民族 (n=7)	100%：非ヒスパニック系

各州・地域の公衆衛生当局は、患者が発症前 1 週間に喫食した食品に関する聞き取り調査を行っている。聞き取りが実施された患者 8 人のうち 6 人（75%）が、RAW FARM ブラ

ンドの生乳チェダーチーズの喫食を報告した。この割合は、過去に実施された FoodNet の住民調査（以下 Web ページ参照）において、回答者の 4.9%が調査実施日前 1 週間に何らかの生乳チーズを喫食したと報告した結果と比べ有意に高い。

<https://www.cdc.gov/foodnet/surveys/population.html>

FoodNet のこの住民調査は下痢症に関連した様々な食品の喫食率の推定に役立っている。この喫食率の差は、本アウトブレイクの患者が RAW FARM ブランドの生乳チェダーチーズの喫食によって感染したことを示唆している。

○ 検査機関での検査および追跡調査によるデータ

本アウトブレイクの公衆衛生調査では、アウトブレイク患者を特定するために PulseNet（食品由来疾患サーベイランスのための分子生物学的サブタイピングネットワーク）のシステムを利用している。CDC の PulseNet 部門は、食品由来疾患の原因菌の DNA フィンガープリントの国内データベースを管理している。原因菌の分離株には WGS（全ゲノムシーケンシング）法により DNA フィンガープリンティングが行われる。

WGS 解析により、本アウトブレイクの患者由来検体から分離された大腸菌株が遺伝学的に相互に近縁であることが示された。この結果は、本アウトブレイクの患者が同じ食品により感染したことを示唆している。

○ 公衆衛生上の措置

調査はまだ継続中であるが、CDC は、RAW FARM ブランドの生乳チェダーチーズを喫食・販売・提供しないよう注意喚起している。

4. シャルキュトリ（食肉加工品）に関連して複数州にわたり発生しているサルモネラ（*Salmonella* I 4:I:-）感染アウトブレイク（2024 年 2 月 15 日付更新情報）

Salmonella Outbreak Linked to Charcuterie Meats

Posted February 15, 2024

<https://www.cdc.gov/salmonella/charcuterie-meats-01-24/index.html>

<https://www.cdc.gov/salmonella/charcuterie-meats-01-24/details.html>（Investigation Details）

<https://www.cdc.gov/salmonella/charcuterie-meats-01-24/map.html>（Map）

米国疾病予防管理センター（US CDC）、複数州の公衆衛生・食品規制当局および米国農務省食品安全検査局（USDA FSIS）は、複数州にわたり発生しているサルモネラ（*Salmonella* I 4:I:-【编者注：“4:I:-”は“4:i:-”と同義であることを CDC に確認済】）感染アウトブレイクを調査するため様々なデータを収集している。

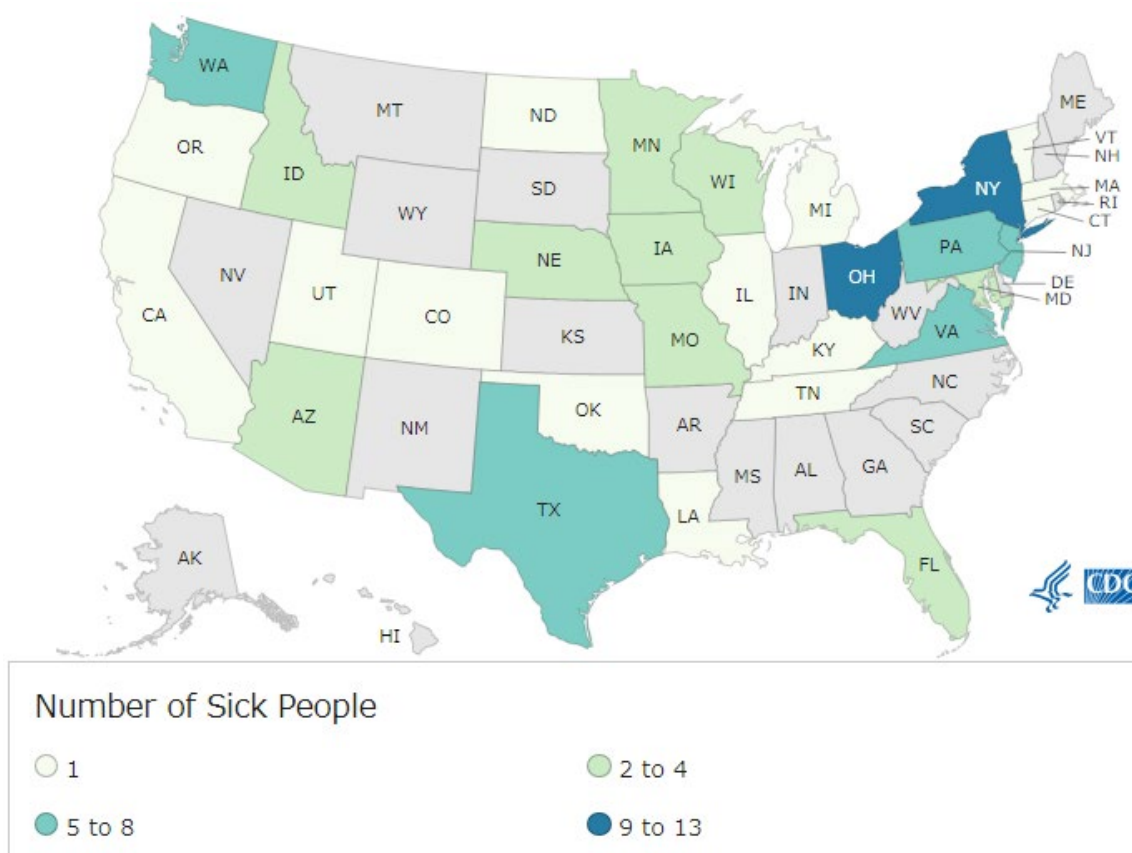
疫学データおよび検査機関での検査データは、Fratelli Beretta 社のシャルキュトリ（食

肉加工品) が本アウトブレイクの感染源となっていることを示している。

○ 疫学データ

*S. I 4:I:-*アウトブレイク株感染患者は、2024年1月18日付更新情報以降に新たに40人が報告され、2月15日時点で30州から計87人が報告されている(図)。患者の発症日は2023年11月20日~2024年1月20日である。情報が得られた患者74人のうち18人が入院した。死亡者は報告されていない。

図：サルモネラ (*Salmonella* I 4:I:-) 感染アウトブレイクの居住州別患者数 (2024年2月15日時点の計87人)



公衆衛生当局は、患者の年齢・人種・民族・その他の人口統計学的特徴、および患者が発症前1週間に喫食した食品など、患者に関する様々な情報を多数収集している。これらの情報は、アウトブレイク調査で感染源を特定するための手掛かりとなる。

本アウトブレイクの患者について現時点で得られている人口統計学的情報は以下の通りである (nは当該情報が得られた患者の数)。

年齢 (n=85)	年齢範囲：1歳未満~92歳 年齢中央値：47歳
-----------	----------------------------

性別 (n=87)	60% : 男性 40% : 女性
人種 (n=66)	94% : 白人 3% : アジア系 2% : アフリカ系アメリカ人または黒人 2% : アメリカ先住民またはアラスカ先住民
民族 (n=62)	92% : 非ヒスパニック系 8% : ヒスパニック系

各州・地域の公衆衛生当局は、患者が発症前 1 週間に喫食した食品に関する聞き取り調査を行っている。聞き取りが実施された患者 46 人のうち 36 人 (78%) が、様々なシャルキュトリを喫食していたと報告した。喫食した製品に関する具体的な情報または顧客カード記録に関する情報が患者 23 人から得られ、このうち 19 人 (83%) が Fratelli Beretta 社製のシャルキュトリのブランド名を報告した。

○ 検査機関での検査データ

FSIS が Fratelli Beretta 社からシャルキュトリ製品「Coppa」の検体を採取し検査を行った結果、サルモネラが検出された。WGS (全ゲノムシーケンシング) 解析の結果、当該サルモネラ株は、本アウトブレイクの患者由来分離株およびミネソタ州保健局 (MDH) が採取したシャルキュトリ製品「Antipasto」検体由来の分離株とは異なる株であることが示された。

患者由来 87 検体および食品 1 検体から分離されたサルモネラ株について WGS 解析が実施され、その結果、アンピシリン、カナマイシン、ストレプトマイシンおよびスルフィソキサゾールのうちの 3 種類以上の抗生物質への耐性が予測された。抗生物質耐性に関する詳細情報は、CDC の全米抗菌剤耐性モニタリングシステム (NARMS) の以下の Web ページから入手可能である。

<https://www.cdc.gov/narms/index.html>

サルモネラ症患者のほとんどは抗生物質を使用せずに回復する。しかし、抗生物質が必要になった場合、本アウトブレイクの一部の患者については、一般的に推奨される抗生物質による治療が困難になる可能性があり、別の抗生物質の選択が必要になることがある。

○ 公衆衛生上の措置

Fratelli Barretta 社は、サルモネラ汚染により、「Coppa」を使用したシャルキュトリの多数のブランドの製品を回収している (以下 Web ページ参照)。

<https://www.fsis.usda.gov/recalls-alerts/fratelli-beretta-usa-inc-recalls-ready-eat-charcuterie-meat-products-due-possible>

CDC は、回収対象製品を喫食・提供・販売しないよう注意喚起している。

(食品安全情報 (微生物) No.2 / 2024 (2024.01.24) US CDC 記事参照)

-
- 欧州疾病予防管理センター (ECDC: European Centre for Disease Prevention and Control)

<https://www.ecdc.europa.eu/en>

欧州における抗菌剤耐性サーベイランスの 2023 年次報告書 (2021 年データの報告)

Antimicrobial resistance surveillance in Europe 2023 - 2021 data

14 Apr 2023

<https://www.ecdc.europa.eu/sites/default/files/documents/Antimicrobial%20resistance%20surveillance%20in%20Europe%202023%20-%202021%20data.pdf> (報告書 PDF)

<https://www.ecdc.europa.eu/en/publications-data/antimicrobial-resistance-surveillance-europe-2023>

本報告書は、侵襲性分離株の抗菌剤耐性 (AMR) について 2022 年に中央アジア・欧州抗菌剤耐性サーベイランス (CAESAR) ネットワークおよび欧州抗菌剤耐性サーベイランスネットワーク (EARS-Net) に報告されたデータ (2021 年のデータ) にもとづいている。CAESAR には 16 カ国がデータを報告し、EARS-Net には欧州連合 (EU) 全加盟国および欧州経済領域 (EEA) 加盟 2 カ国 (アイスランド、ノルウェー) の計 29 カ国がデータを報告した。EARS-Net および CAESAR はデータの収集と分析に同等の方法を使用しているが、本報告書に記載されているデータは国によって異なるサーベイランスシステムに由来している。そのためデータにはプロトコルや手法の違いによる影響があるため、AMR パターンを各国間で比較する際には注意が必要である。

報告書概要

上記 2 つの抗菌剤耐性サーベイランスネットワークに報告された分離株に関する抗菌剤耐性の 2021 年の状況は、細菌種、抗菌剤グループおよび地域によって大きく異なっていた。第三代セファロスポリン系およびカルバペネム系の抗菌剤への耐性率は、概して肺炎桿菌 (*Klebsiella pneumoniae*) の方が大腸菌 (*E. coli*) より高かった。カルバペネム耐性率は、大腸菌では多くの国で依然として稀であるが、肺炎桿菌では 33%の国が耐性率 25%以上を報告した。カルバペネム耐性は緑膿菌 (*Pseudomonas aeruginosa*) およびアシ

ネトバクター属菌でも高頻度に見られ、耐性率は肺炎桿菌より高かった。過去の各地域報告書にも見られるように、耐性率は欧州の北から南および西から東へ向けて上昇傾向にあり、世界保健機関（WHO）の区分による欧州地域の南部・東部の耐性率が北部・西部より高かった。この傾向は、肺炎桿菌の第三世代セファロスポリン系とカルバペネム系抗菌剤への耐性率、およびアシネトバクター属菌のカルバペネム耐性率で特に顕著であった。

CAESAR に 2020 年および 2021 年の両年のデータを提出した 13 カ国のみを見ると、報告された分離株の総数は 2021 年の方が 2020 年より多かった。これは、報告された分離株数が全ての病原体で増加した結果であった。このような全体的な傾向は国別に見ると必ずしも当てはまらなかったが、アシネトバクター属菌の報告数は全ての国で 2021 年の方が 2020 年より多かった。CAESAR に 2021 年のデータを報告した全 16 カ国では、大腸菌（37.9%）、黄色ブドウ球菌（17.2%）および肺炎桿菌（14.9%）の分離株の合計が全体の 70.0%を占めた。

○ 2021 年の細菌種別データ

- ・ 大腸菌のフルオロキノロン系への耐性率は、概して WHO 欧州地域の北部で特に低く、南部で特に高かった。大腸菌のデータを報告した 45 カ国のうち、2 カ国（4%）が耐性率 10%未満、17 カ国（38%）が 25%以上、および 4 カ国（9%）が 50%以上であった。大腸菌の第三世代セファロスポリン系への耐性率は、45 カ国のうち 12 カ国（27%）が 10%未満と報告したが、4 カ国（9%）が 50%以上であった。大腸菌のカルバペネム耐性率は、44 カ国のうち 8 カ国（18%）が 1%以上と報告した。
- ・ 肺炎桿菌の第三世代セファロスポリン系への耐性は、WHO 欧州地域のかなり広い範囲で見られた。肺炎桿菌に関する 2021 年のデータを報告した 45 カ国のうち 7 カ国（16%）が耐性率 10%未満であった一方で、主に南部および東部の 19 カ国（42%）が耐性率 50%以上であった。肺炎桿菌のカルバペネム耐性率は大腸菌より高かった。2021 年は、耐性率は概して WHO 欧州地域の北部および西部で低く、45 カ国のうち 14 カ国（31%）が耐性率 1%未満であった。15 カ国（33%）が耐性率 25%以上と報告し、このうち 8 カ国（45 カ国の 18%）が耐性率 50%以上であった。
- ・ 緑膿菌のカルバペネム耐性率は、WHO 欧州地域内の各国間で大きな差が見られた。緑膿菌に関する 2021 年のデータを報告した 44 カ国のうち 2 カ国（5%）が耐性率 5%未満であった一方で、6 カ国（14%）が耐性率 50%以上であった。
- ・ アシネトバクター属菌のカルバペネム耐性率は WHO 欧州地域内の各国間で差が大きく、アシネトバクター属菌に関する 2021 年のデータを報告した 45 カ国のうち 3 カ国

(7%) が耐性率 1%未満であり、25 カ国 (56%) が耐性率 50%以上でその多くが南部および東部の国であった。

- ・ 黄色ブドウ球菌に関する 2021 年のデータを報告した 44 カ国のうち、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌 (MRSA) の割合は 11 カ国 (25%) が 5%未満、13 カ国 (30%) が 25%以上であった。
- ・ 肺炎球菌のペニシリン耐性株 (penicillin non-wild-type) の割合は、WHO 欧州地域内の各国間で大きな差が見られた。肺炎球菌に関する 2021 年のデータを報告した 43 カ国のうち 2 カ国 (5%) でペニシリン耐性株の割合が 5%未満であり、5 カ国 (12%) で 25%以上であった。
- ・ エンテロコッカス・フェシウム (*Enterococcus faecium*) のバンコマイシン耐性率は、WHO 欧州地域内の各国間でかなりの差があった。エンテロコッカス・フェシウムに関する 2021 年のデータを報告した 44 カ国のうち 6 カ国 (14%) が耐性率 1%未満であり、17 カ国 (39%) が 25%以上、および 5 カ国 (11%) が 50%以上であった。

(食品安全情報 (微生物) No.4 / 2023 (2023.02.15) ECDC、No.4 / 2022 (2022.02.16) ECDC/WHO-Europe、No.6 / 2021 (2021.03.17)、No.4 / 2021 (2021.02.17)、No.20 / 2018 (2018.09.26)、No.26 / 2015 (2015.12.24)、No.24 / 2011 (2011.11.30)、No.25 / 2010 (2010.12.01) ECDC 記事参照)

● 欧州委員会健康・食品安全総局 (EC DG-SANTE: Directorate-General for Health and Food Safety)

https://commission.europa.eu/about-european-commission/departments-and-executive-agencies/health-and-food-safety_en

食品および飼料に関する早期警告システム (RASFF : Rapid Alert System for Food and Feed)

https://food.ec.europa.eu/safety/rasff_en

RASFF Portal Database

<https://webgate.ec.europa.eu/rasff-window/screen/search>

Notifications list

<https://webgate.ec.europa.eu/rasff-window/screen/list>

2024年1月30日～2月12日の主な通知内容

警報通知 (Alert Notification)

英国産冷燻サーモンのリステリア (*L. monocytogenes*)、エストニア産ペットフードのサルモネラ (*S. Enteritidis*)、インド産粉末タマネギのサルモネラ、オランダ産牛切り落とし肉のサルモネラ (*S. Enteritidis*)、イタリア産ゴルゴンゾーラチーズのリステリア (*L. monocytogenes*)、トルコ産 (ドイツ経由) ピスタチオハルバのサルモネラ (*S. Havana*)、ポーランド産冷凍ブルーベリーのノロウイルス、ポーランド産サラミの志賀毒素産生性大腸菌、イタリア産活二枚貝の大腸菌、フランス産スパイシーチキンのリステリアなど。

注意喚起情報 (Information Notification for Attention)

フランス産ブラックプディング (ソーセージ) のリステリア、ベトナム産黒コショウのサルモネラ属菌、スペイン産 (インド産粉末タマネギ使用) 調味料のサルモネラ、アイルランド産牡蠣のロタウイルス、インド産オオバコ繊維 (99%) のベロ毒素産生性大腸菌 (O103:H2)、フランス産丸鶏のサルモネラ、フランス産牡蠣のノロウイルス、ポーランド産七面鳥もも肉のサルモネラ (*S. Typhimurium*) など。

フォローアップ喚起情報 (Information Notification for follow-up)

パキスタン産バスマティ米の害虫、オランダ産の生ペットフードのサルモネラ、ドイツ産有機ヒマワリ搾油粕のサルモネラ属菌、シンガポール産冷凍ワンタン生地のカビ、ドイツ産 (ベルギー産原材料使用) ハムのリステリア (*L. monocytogenes*)、トルコ産ペットフードのサルモネラと腸内細菌、ポーランド産鴨むね肉のサルモネラ (*S. Newport*)、ベルギー産食品サプリメントのカビなど。

通関拒否通知 (Border Rejection Notification)

エクアドル産冷凍生エビのコレラ菌、ナイジェリア産ゴマ種子のサルモネラ属菌など。

● アイルランド食品安全局 (FSAI: Food Safety Authority of Ireland)

<https://www.fsai.ie/>

英国が 2024 年 1 月 31 日付で輸入管理制度を変更

Changes to UK import controls from 31 January 2024

24 JANUARY 2024

<https://www.fsai.ie/news-and-alerts/latest-news/changes-to-uk-import-controls-from-31-january-2024>

2023 年 8 月に英国政府は、アイルランドおよびその他の欧州連合 (EU) 加盟国からグレートブリテンに輸入される生きた動物・動物由来食品・胚芽製品・動物副産物・植物・植物製品・果物・野菜・園芸製品について、新たに導入される税関手続きおよび輸入管理措置を定めた「Border Target Operating Model (国境目標運用モデル)」(以下 Web ページ参照) を発表した。これらの措置は、衛生植物検疫 (SPS : sanitary and phytosanitary) 措置と呼ばれる。

<https://www.gov.uk/government/publications/the-border-target-operating-model-august-2023>

これらの新たな手続きおよび管理措置が 2024 年 1 月 31 日より施行されることから、アイルランド食品安全局 (FSAI) は、ランドブリッジの利用を含め、アイルランドからグレートブリテンに食品を輸出する全ての事業者への影響について、食品事業者に注意喚起している。

英国の新たな輸入要件

本件において留意すべき重要な変更点は以下の通りである。

グレートブリテンに輸入される、中リスクの動物製品・植物・植物製品には、英国のリスク分類 (以下 Web ページ参照) に基づいた輸出検査証明書および植物検疫証明書が必要になる。

<https://www.gov.uk/government/collections/import-risk-categories-for-animals-animal-products-plants-and-plant-products>

グレートブリテンへの輸入代行業者やグレートブリテンを拠点とする代理業者などは、食品・飼料に関する英国の SPS 輸入管理制度である「動物由来製品・動物・食品・飼料の輸入システム (IPAFFS : Import of products, animals, food and feed system)」への事前の届け出が委託ごとに必要になる。輸入業者向けの詳細なガイダンスは以下の各 Web ページから入手可能である。

- ・ Guidance on importing live animals or animal products (生きた動物および動物製品の輸入に関するガイダンス)

<https://www.gov.uk/government/collections/guidance-on-importing-live-animals-or-animal-products>

- Import plants and plant products from the EU to Great Britain (EU 加盟国からの植物および植物製品のグレートブリテンへの輸入に関するガイダンス)
<https://www.gov.uk/guidance/import-plants-and-plant-products-from-the-eu-to-great-britain>
- Import plants and plant products from non-EU countries to Great Britain (EU 非加盟国からの植物および植物製品のグレートブリテンへの輸入に関するガイダンス)
<https://www.gov.uk/guidance/import-plants-and-plant-products-from-non-eu-countries-to-great-britain>

英国のこれらの新たな要件は、アイルランドおよび EU 加盟各国からの製品の輸出時に適用されている現行の手続きに追加される予定である。

● ProMED-mail (The Program for Monitoring Emerging Diseases)

<https://promedmail.org>

コレラ、下痢、赤痢最新情報 (08) (07) (06) (05)

Cholera, diarrhea & dysentery update (08) (07) (06) (05)

8, 5, 3 February & 30 January 2024

コレラ

国名	報告日	発生場所	期間	患者数	死亡者数
アフリカ 連合	2/3	加盟 9 カ国*	直近 1 週間	計 5,310	29
		加盟 13 カ国 (以下に内訳)	2024 年 1 月～	計 26,122 (確定 3,396、 疑い 22,726)	計 663
		ブルンジ		33	0
		コモロ		6	1
		コンゴ民主共和国		783	13
		エチオピア		779	12
		ケニア		128	0
		マラウイ		11	0

		モザンビーク		2,563	6
		南アフリカ共和国		2	0
		ソマリア		1,406	18
		タンザニア		164	1
		ウガンダ		13	0
		ザンビア		13,015	488
		ジンバブエ		7,219	124
スーダン	2/3	10州	2024/1/29 時点	累計 1,094	累計 284
スーダン	1/28	北部州 (国内で発生中のアウトブレイクの拡散により患者報告)		疑い患者複数	
		リバーナイル州		確定 41	
ソマリア	1/30	複数の地域**	2024/1/1~14	計 980	
			2022/1/1~14	472	

* ブルンジ、コモロ、エチオピア、ケニア、マラウイ、モザンビーク、ソマリア、ザンビア、ジンバブエ

** 被害が特に大きい地域：Bilitwin

食品微生物情報

連絡先：安全情報部第二室